

ここ最近、職員間で絵本の学習をする機会が多くあり、私自身数十年前、たくさん購読していた「子どものとも月刊絵本」(まりもでも長年取り扱っています。)を、本当に久々に見返す機会となりました。毎月数冊の絵本が届くのですが、忙しさから開いたことのないものもあり、一冊一冊、反省と期待をもってページをすすめていきました。すると中に「絵本のたのしみ」がはさまっていました。「絵本のたのしみ」とは、数種ある月刊絵本に付いていた「折り込みふろく」だったのですが、毎回、絵本についての素敵なお話が書かれていました。懐かしさに浸りながら読んだ内容が、思った通り素敵な内容でした。



間崎ルリ子

## 第8回 むかし、 あるところに…… ——昔話の絵本



『てぶくろ』ウクライナ民話  
エウガーニー・M・ラチョフ 絵  
うちだりさこ 訳

『だいくとおにろく』  
松居直 再話 赤羽末吉 画

『三びきのやぎのがらがらどん』  
ノルウェーの昔話  
マーシャ・ブラウン 絵 せた ていじ 訳  
(すべて福音館書店)

「むかし、あるところに」と始まる昔話は、いつ、どこで、だれが作ったのかわからないお話です。人間はことばを獲得すると、自分のしたことをひとに話したり、それを聞いたひとがまるでそれを自分のしたことのように受け止めると、またそれをひとに言いたくなり……という風にして何百年も、あるいは何千年もの間語り伝えられて出来上がつていったと考えられています。そんなにも長い間語り継がれてきたのは、その話が万人の心に訴える力を持っているからなのです。

心理学者のベッテルハイムは、「子どもは愛する人から昔話を語ってもらって、それを聞いて育たなければならぬ」といっています\*。子どもを育てるうえで一番大切なのは、子どもが「生きていることに意味を見出せるよう」手助けをしてやることで、それには昔話を聞くことが大変役に立つ、つまり主人公と一緒に冒険し、困難にあい、それを乗り越えて幸せになるという体験の積み重ねで、いつの間にか自分の生きていることを肯定できるようになるのです。「だれにも避けられない困難に出会ったとき、われわれを支えてくれるのは未来に対する希望だけだ」とベッテルハイムはいっています。幼いときに無意識のうちに他のもの(人間とは限りませんが)になって、その体験をわが体験とすることが大切なのです。

もともと昔話はことばで伝えられたもので、ことばを耳で聞いて自分の想像力でイメージをつくりあげて体験していくのが昔話を聞くという行為です。それを聞いて描くイメージは人によってそれぞれであり、自分自身のイメージであることが大切だと思われます。すると、昔話を絵本にするのは難しい行為だといえますが、それでも子どもの想像力に刺激を与え、それを豊かにし、それぞれの子どもが自分自身のイメージを描く助けとなる素晴らしい昔話の絵本があり、それらは貴重な存在だと思います。例えば前にもふれましたが、『だいくとおにろく』のおにろくの力強いあたたかいイメージはこわいだけでなく、いのちにあふれているので、他のだれでもない、その子ども自身の“おにろく”になるのです。また、『三びきのやぎのがらがらどん』の、自然の驚異が具現化されたようなトロルのイメージは、それに負けず立ち向かっていくおおきいやぎのがらがらどんの力強いイメージとともに、子どもに忘れない体験をもたらすでしょう。それに、『てぶくろ』の、ロシアの大地から生え出たような個性豊かな動物たちが小さくててぶくろにぎゅうぎゅう詰めになり、うれしそうに居心地良さそうにしている様子は、子どもに北国の冬の夕暮れの中で起きる不思議な出来事を体験させてくれるにちがいありません。このような絵本は子どもの心の中に豊かな世界をつくりあげてくれ、子どもにかけがえのない体験を与えてくれます。ぜひ子どもに読んでやって、ともに楽しんでいただきたいものです。

12月の予定			1月の予定		
8 木	避難訓練		10 火	身体測定	
12 月	身体測定		18 水	5歳児クラス懇談会	
14 水	誕生会		19 木	避難訓練	
23 金	クリスマス会		25 水	誕生会	
29 木	弁当日 (27火)~29木: 保育協力日)				

\*29(木)は、18:00までの保育となります。

\*12/30(金)~1/4(水)年末年始休園日

\*12/27~1/5の年末年始の登園予定をおしらせください。

今年も大変お世話になりました。来年もどうぞ、よろしくお願ひ致します。

